

個人投資家向け 会社説明会

長瀬産業株式会社

証券コード:8012

これからも、
じぶんらしく。
じぶんらしくなく。

©イリヤ・クブシノフ Ilya Kuvshinov

長瀬産業 経営管理本部の半羽と申します。
本日はお忙しい中、ご視聴いただき誠にありがとうございます。

長瀬産業は業態としては化学品商社という位置づけですが、いろいろな事業を展開しています。

多少複雑な部分もありますが、少しでもご興味を持って頂けるよう説明して参りたいと思います
ので、どうぞ宜しくお願い致します。

INDEX

1. 長瀬産業について
2. 成長戦略「中期経営計画 ACE 2.0」(2021-25年度)
3. 株主還元
4. まとめ

こちらが本日の説明内容となります。

まずは、長瀬産業がどのような会社なのか。

次に中期経営計画**ACE 2.0**での成長戦略に向けた我々の取り組みをご紹介します、最後に株主還元についてご説明させていただきます。

INDEX

1. 長瀬産業について
2. 成長戦略「中期経営計画 ACE 2.0」(2021-25年度)
3. 株主還元
4. まとめ

まず、長瀬産業についてです。

誠実正道

【経営理念】

社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、
社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、
社員の福祉の向上と社会への貢献に努める

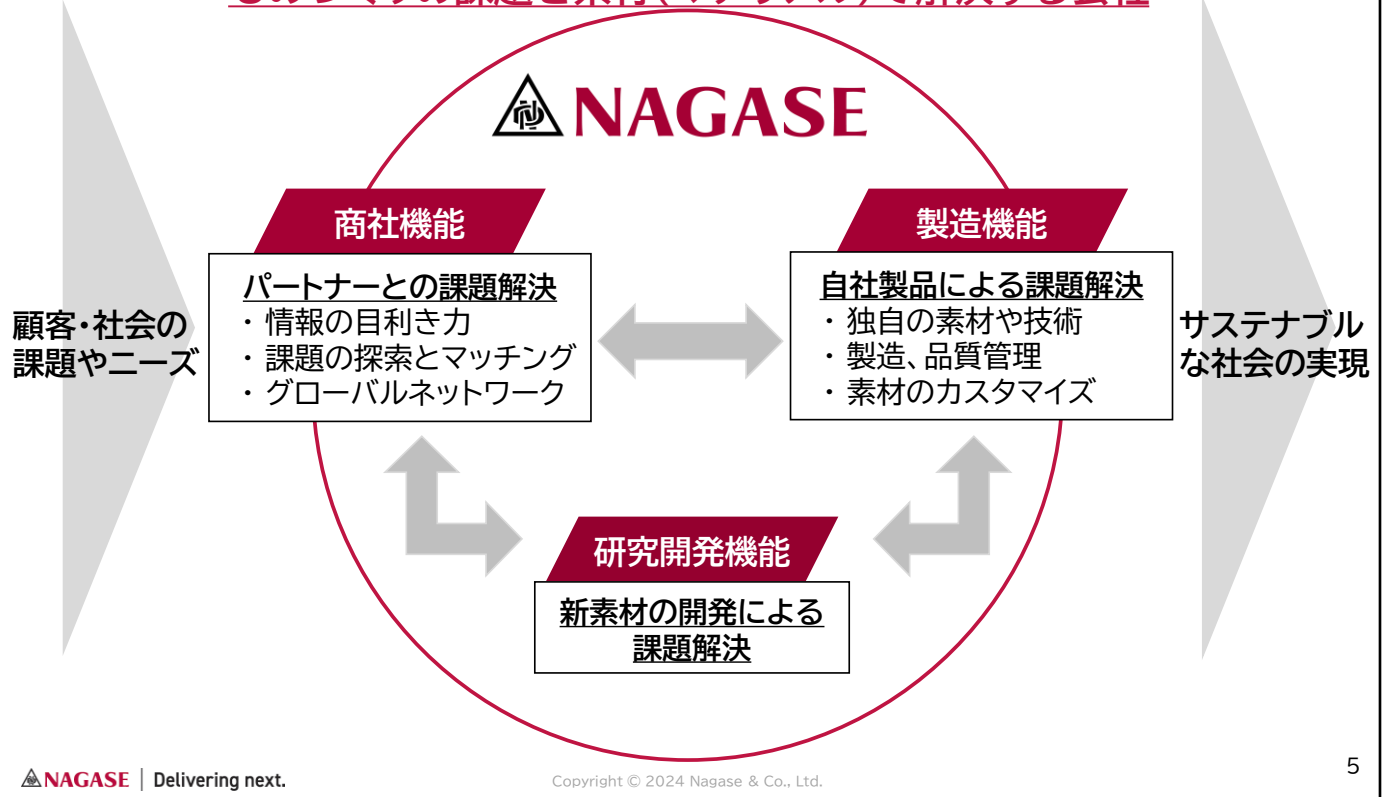
こちらが経営理念となります。

誠実正道とありますが、正式には、「社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、社員の福祉の向上と社会への貢献に努める」というのが正式な経営理念になります。

この「誠実に正道を歩む」という理念が従業員の中に浸透していて、例えば法令上や法律上は問題ないことがあっても、倫理的、道徳的に基づいて行動する精神が、従業員の中に浸透していて、何か決断を迷った時の、1つの道標になっています。

▶ NAGASEグループのユニークな機能

ものづくりの課題を素材(マテリアル)で解決する会社



こちらの図はNAGASEの機能を表しています。

NAGASEの特徴を一言でいうと上の赤字にありますように「ものづくりの課題を、素材(マテリアル)で解決する会社」ということになります。

ものづくりをされているお客様は、社会面や環境面、消費者ニーズなど、さまざまな課題を抱えておられます。

あとで説明しますが、NAGASEは、商社としての機能に加えて、製造機能、研究開発機能という3つの機能をもっています。

これらの機能を活用し、お客様の課題を解決することで、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

▶ NAGASEの概要

創業

1832
年

連結売上高

9,001
億円

連結従業員数

7,528
名

格付(R&I)

A(ポジティブ)

業態

商社

売上総利益 海外比率

54
%

拠点数

25 106
カ国・地域 社

特許出願数

約1,500
件

市場区分

プライム

自己資本比率

50
%

取引企業数

約18,000
社

時価総額

3,665
億円

※2023年度実績

※2024年10月末時点

NAGASEの主な情報を一覧にしています。

創業が1832年と、およそ江戸時代後期になり、今年で192年という、比較的長い歴史を持った会社です。

2023年度の実績につきましては、連結の売上高が約9,000億円、売上総利益の海外比率は54%と、半分以上が海外でのビジネスとなっています。

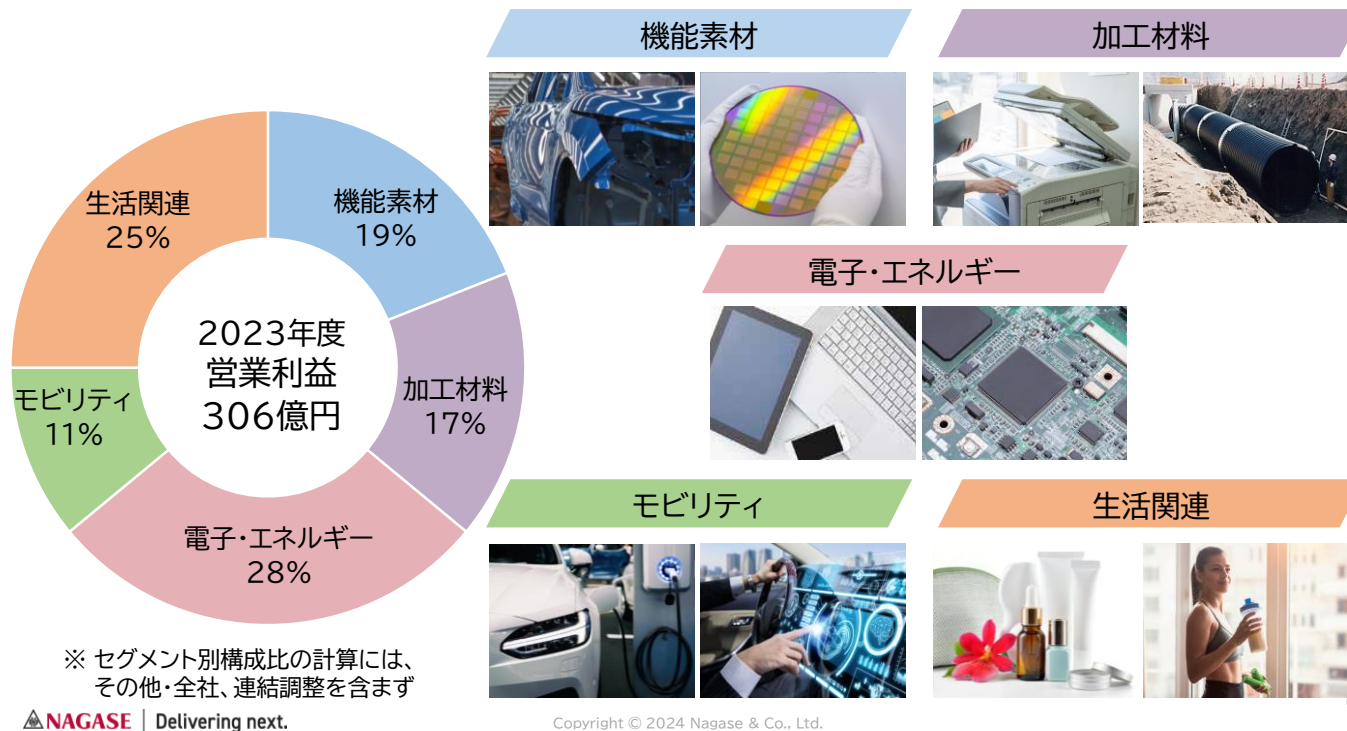
自己資本比率は50%であり、財務的にも健全、安全な会社と見ていただけたと思います。

拠点数につきましては、25の国と地域で、106のグループ会社を有しています。

取引企業数は1万8,000社、連結の従業員数は約7,500名強という規模の会社になります。

▶ 5つの事業セグメント

化学品・食品素材をはじめ、様々な業界のサプライチェーンに
川上から川下まで幅広く事業を展開



7

このページは事業セグメントになります。

事業領域としては5つのセグメントに分かれています。

それぞれのセグメントについては次のページ以降で少し詳細に説明しますが、簡潔に言いますと、塗料やケミカル材料などを扱う化学品、OA機器などに使われるエンジニアリングプラスチックそして食品・化粧品の素材まで、幅広く、様々な業界のサプライチェーンに事業を展開しています。

左のドーナツグラフは2023年度の営業利益で306億円となっていますが、各セグメントでバランスよく利益を出していることが見ていただけだと思います。

では、このセグメントのベースになっているものは何か、を歴史をたどりながらお話ししたいと思います。

▶ 商社の枠を超えてきた約190年の歴史

1832～

1900～

1970～

2010～

化学品の専門商社としての地位確立

Story 1 染料の取り扱いから化学領域へ

NAGASEグループのグローバル展開

Story 2 海外有力メーカーとの取引を開始

製造・加工、研究開発機能の強化

Story 3 エポキシ樹脂の製造を開始

Story 4 研究開発拠点の設立

食品素材ビジネスの本格化

Story 5 林原(現 ナガセヴィータ)・Prinovaのグループ化

ここにありますが、今のNAGASEを形成した転機が大きく5つあります。

▶ 商社の枠を超えてきた約190年の歴史

1832～

1900～

1970～

2010～

化学品の専門商社としての地位確立

Story 1 染料の取り扱いから化学領域へ

1832年、長瀬伝兵衛が紅花や布海苔、澱粉を扱う京都・西陣で「鱗型屋」を創業。のちに、天然染料だけでなく、合成染料の取り扱いを開始したことで、化学業界での基盤を確立した。



初代 長瀬伝兵衛



紅花

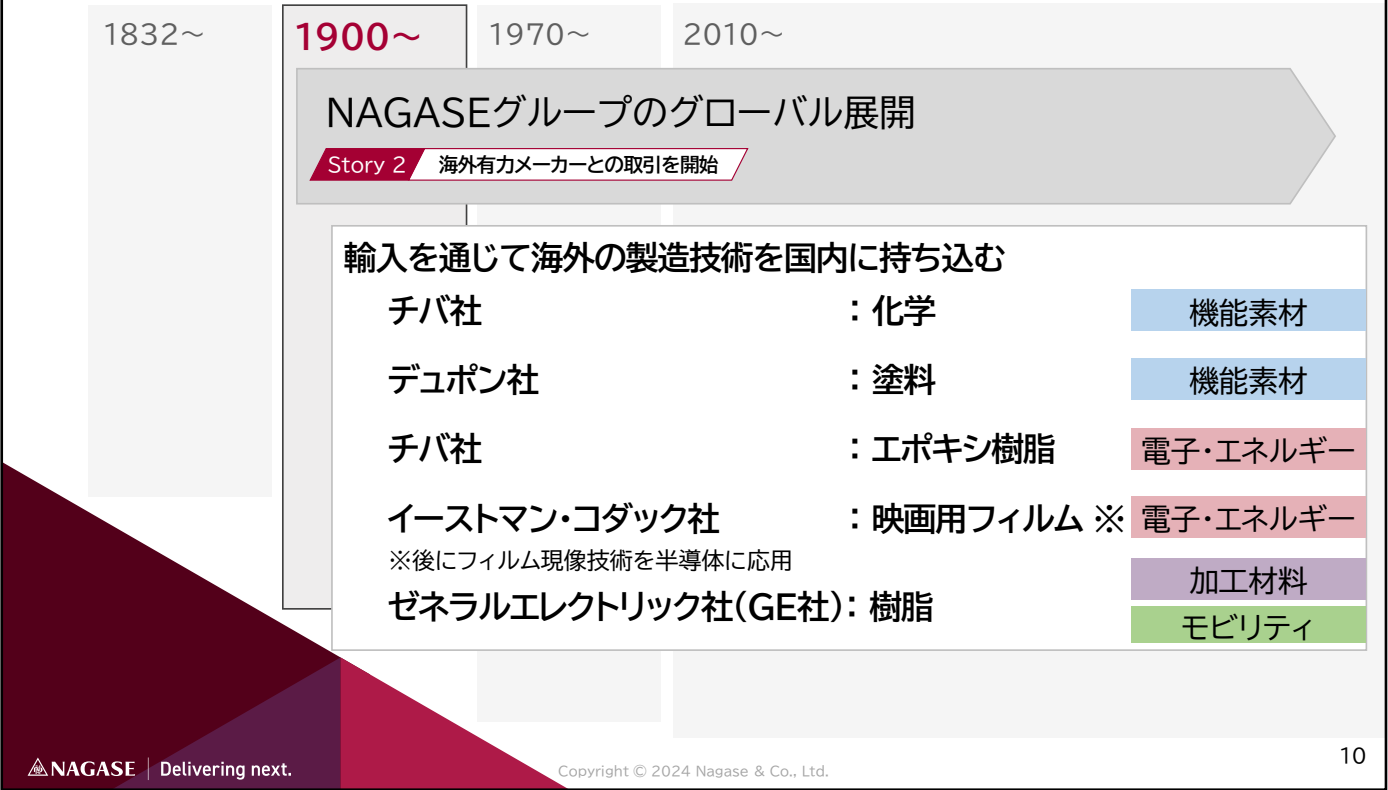
NAGASEグループのイメージソング「Safflowers」
<https://www.youtube.com/watch?v=X4wDZ92IIAM>

NAGASEは1832年に京都の西陣で創業しました。

当時は天然の染料、紅花を扱っており、そこから化学品の領域へと取り扱い品を広げていきました。

紅花の赤がNAGASEのコーポレートカラーになっていて、この資料のベースの色にも使われています。紅花というのは、もともと右の画像にあるような黄色の花です。これが赤色になっていくのですが、その過程をNAGASEのコーポレートソングと合わせた動画を作成しています。ご興味のある方はURLから、是非ご覧頂ければと思います。

▶ 商社の枠を超えてきた約190年の歴史



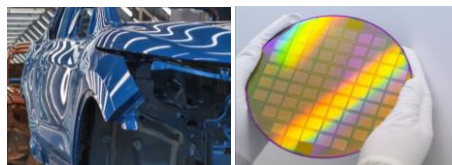
まず最初の転機ですが1900年ごろにスイスのチバ社との取引を開始し、海外展開が進んだことです。

1900年前後は、海外に行くのも非常に大変だったかと想像しますが、当時は化学といえば、ヨーロッパ、アメリカなど、海外中心であり、海を渡り、サプライヤーの発掘を進めていった時代です。

ここにありますように、チバ社、デュポン社、イーストマン・コダック社、GE社などの大手のメーカーとのパートナーシップを築き、事業を拡大させていきました。

右にありますように、このころの取り組みが各セグメントの基礎になっています。

機能素材セグメント



- 化成品事業を基盤として高機能素材を提供
- 塗料・インキ、ウレタン、半導体業界などの業界向けに事業を展開

収益貢献の大きい商品および製品

- 塗料・インキ用添加剤
- 半導体材料
- ウレタン原料
- SAP(高吸水性ポリマー)原料

身の回りの製品例

- 自動車や建築用の塗料原料
- 半導体の材料
- 建築用の断熱材原料
- 自動車のシートのウレタン原料
- おむつの原料

強み

- 長年維持してきた圧倒的シェアに裏付けられるサプライチェーンマネジメント機能
- 長年培った取引先との強固な信頼関係と業界・化学品への深い知見
- グローバルネットワークや課題解決力、専門性
- グループ力を活かした情報力

では、ここで関連するセグメントをご紹介します。

まずご紹介するのが、機能素材セグメントになります。

このセグメントは、NAGASEの源流となるセグメントであり、塗料などの化成品事業を基盤として、高機能素材を提供しています。

塗料・インキ、ウレタン、半導体などの業界向けに事業を展開しています。

収益貢献の大きい商品・製品としては、塗料・インキ用の添加剤や、ウレタン原料、高吸水性ポリマーの他、現在は半導体の材料なども扱っています。

これらは、皆さまの身の回りにある自動車や建築用の塗料原料や、断熱材の原料、おむつの原料、電化製品の半導体などに使用されています。

加工材料セグメント



- OA機器や電機・電子業界を中心に幅広い業界に合成樹脂を販売
- ナガセアプリケーションワークショップとの連携で付加価値を拡大

収益貢献の大きい商品および製品

- エンジニアリングプラスチック
- 工業用ホース、土木用パイプなど

強み

- 技術的知見・情報やノウハウ
- サプライチェーンネットワーク
- アジア太平洋エリアでの充実したサプライヤーおよび顧客基盤
- ナガセアプリケーションワークショップとの連携

ナガセアプリケーションワークショップとは？

商社機能

×

研究開発機能

- 商社が運営するオープンイノベーションラボ
- ユニークな新技術や新素材の評価・分析、新規用途等を開発
- プラスチックとコーティングの分野で機能性・意匠性を追求

身の回りの製品例

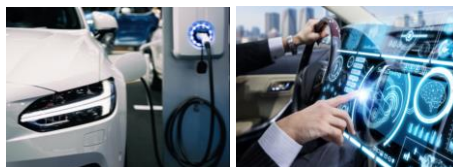
- OA、PCなどに使用される樹脂
- 樹脂製のカップ
- 化粧品容器
- 工業用ホース、土木用パイプなど

1900年ごろから樹脂も扱っており、そのころの取引が加工材料・モビリティセグメントにつながっています。

加工材料セグメントでは、OA機器や電機・電子業界を中心に幅広い業界に合成樹脂を販売しています。グループ会社の中には、右上にありますように工業用ホースや土木用パイプを製造・販売している会社もあります。

皆さまの身の回りにあるOA機器や、化粧品容器、食品包材、また、電気・ガスといったインフラを保護するパイプや排水管などにも、NAGASEの樹脂製品が使用されています。

モビリティセグメント



- 自動車の内外装の樹脂や、EV、ハイブリッド車用などのカーエレクトロニクスに関わる商品を扱う
- 自動運転社会の到来を見据えセンサー・電子デバイスへの事業展開を図る

収益貢献の大きい商品および製品

- 自動車向けエンジニアリングプラスチック
- カーエレクトロニクス関連部材など

強み

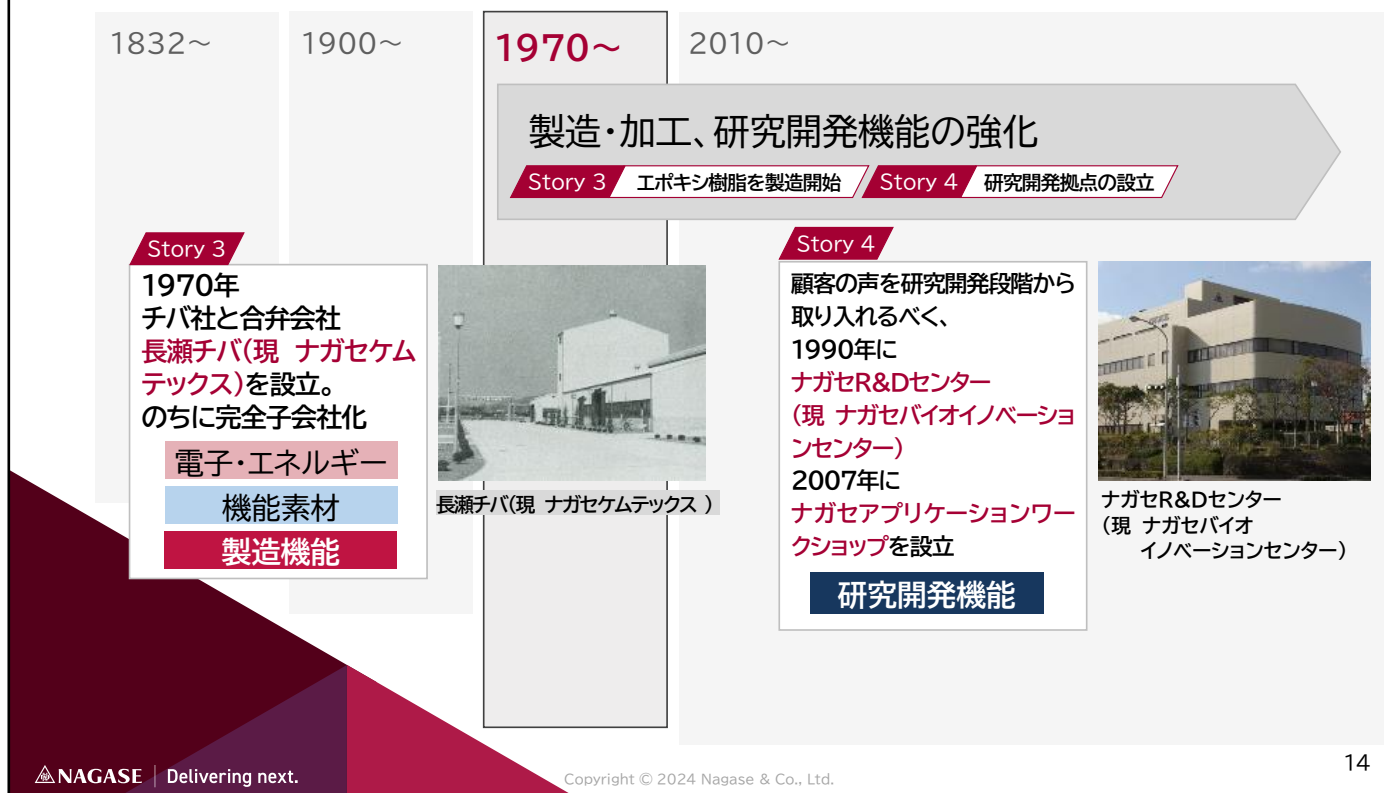
- 幅広い商品群
- 製品・技術の発掘力とグローバルサプライチェーン構築力
- 取引先との強固な信頼関係

身の回りの製品例

- 自動車の内外装などに使われる樹脂
- 車内エレクトロニクス用の製品
- 自動運転用のセンサー部品
- 電動化用の製品
- 車載ディスプレイ関連部材
- リチウムイオン電池材料 など

モビリティセグメントでは、自動車向けエンジニアリングプラスチックや、カーエレクトロニクス関連部材などを扱っており、ガソリン車から、EV、ハイブリッド車や自動運転用の製品に使用される幅広い商品群をもっています。

▶ 商社の枠を超えてきた約190年の歴史



14

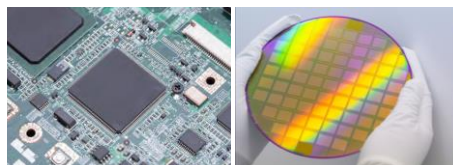
歴史に戻ります。次の転機は、1970年代で、国内で製造、研究開発を強化したことです。

大きな転機は1970年にチバ社との合併会社を日本で設立し、エポキシ樹脂の製造を開始しました。

これがナガセケムテックスのスタートとなっています。

エポキシ樹脂は化学反応によって固くなる樹脂で塗料やコーティング材、接着剤として使われるなど、幅広い用途があります。

また、1990年頃から研究開発の強化が行われ、1990年にバイオ関係を中心に研究開発を行う現在のナガセバイオイノベーションセンターを設立しました。



- エレクトロニクスやケミカルなどの領域で独創的な技術を持つ製造会社
- 長年にわたり独自の合成技術・配合技術・評価技術を蓄積

特に強みをもつ製品

- 半導体の封止材等に用いられる変性エポキシ樹脂等の高機能樹脂
- 半導体や液晶製造の微細加工などで使用されるプロセスケミカルの薬液

外部からの評価

- 液状封止材は最先端半導体向けに広く使用されており、**業界標準の地位を確立**
- 微細加工に使用されるプロセスケミカルの薬液も**高いシェアを有する**

ナガセケムテックスについてご紹介します。

ナガセケムテックスはエレクトロニクスやケミカルなどの領域で独創的な技術を持った製造会社になります。

特に強みを持っているのが、半導体の封止材等に用いられる変性エポキシ樹脂等の高機能樹脂になります。

半導体チップは熱、衝撃、湿気等に弱く保護するための対策が必要となります。そのため、半導体の製造工程には、密着性や耐水性、絶縁性などに優れた封止材で半導体チップを覆う工程があります。

その工程にナガセケムテックスのエポキシ樹脂が使用されており、特に液状の封止材は最先端半導体向けに広く使用され、一部のレイヤーでは業界標準の地位を確立しています。

電子・エネルギーセグメント



- 半導体や電子デバイスなどの業界の潜在的なニーズを先取りし、グループの製造機能を活用し、オリジナリティの高い製品を提供

収益貢献の大きい商品および製品

- 変性エポキシ樹脂
- フォトリソグラフィ材料
- 半導体・電子デバイス関連装置
- 精密研磨材料
- ディスプレイ用材料
- タッチパネル部材など

身の回りの製品例

- PC、スマホ、タブレットなどの液晶材料
- PC、スマホ、タブレットなどの電子部品材料
- 電化製品に使われる半導体の材料など

強み

- 商社機能とメーカー機能が融合した製販一体体制
- メーカーとしての技術力・開発力を背景としたソリューション提供
- 顧客密着型の営業体制
- 顧客ニーズを的確に反映した商材探索・提案
- サプライヤーの市場開発サポートおよび技術的信頼

そのナガセケムテックスの製品を取り扱っているのが電子エネルギーセグメントです。

このセグメントは変性エポキシ樹脂の他、半導体や電子デバイスに使用される材料や、ディスプレイ用部材などを扱っています。

皆さまの身の回りでは、電化製品に使われる半導体の材料や、パソコン、スマホ、タブレットなどの液晶、電子部品の材料などに携わっています。

▶ 商社の枠を超えてきた約190年の歴史

1832～

1900～

1970～

2010～

食品素材ビジネスの本格化

Story 5 林原(現 ナガセヴィータ)・Prinovaのグループ化

2012年に林原(現 ナガセヴィータ)、
2019年には米国のPrinovaグループを買収し、食品
素材ビジネスを本格化

生活関連



林原(現 ナガセヴィータ)



Prinovaグループ

歴史に戻ります。

2010年代には、電子機器や自動車業界への依存度が高かったポートフォリオを景気の影響を受けにくい、食品業界向けの事業を拡大するために食品素材ビジネスを本格化させました。

2012年に食品・化粧品素材などを扱うバイオ企業・林原を買収、現在はナガセヴィータに名称を変更しています。

ヴィータには生命や暮らしという意味がありサステナブルな価値の共創を加速していきたいという思いが込められています。

そして2019年には食品素材販売や受託加工ビジネスを行う、米国のPrinovaグループを買収しました。

ナガセヴィータ、Prinovaグループについては次のページから説明していきます。



- バイオテクノロジーや機能性色素の技術をベースに幅広い事業を展開
- 食品素材、パーソナルケア素材、医薬品素材など幅広い分野の製造・販売を担う

特に強みをもつ製品

- **トレハロース**:キノコ類や酵母に含まれる天然の糖
でん粉老化、冷凍による劣化の抑制や、食感改良など様々な効果を持ち、和洋菓子や冷凍食品などに使用される
世界初のトレハロース(トレハ[®])の大量生産技術を開発
- **AA2G[®]** :主に化粧品素材として使用されるビタミンC
安定的な構造をもち、化粧品に配合しても安定で、着色しにくい
国内外のスキンケア商品に配合される

まずはナガセヴィータです。

ナガセヴィータは、バイオテクノロジーや機能性色素の技術をベースに、食品素材、パーソナルケア素材、医薬品素材など幅広い事業を展開しています。

特に、トレハロースと呼ばれるシイタケ等のキノコ類に多く含まれる貴重な糖質は、食品を長持ちさせたり、固くなるのを抑えたり、冷凍したときに組織が壊れることを防ぐなどの効果をもっており、和菓子や洋菓子、冷凍食品などに使われています。

これを大量生産する技術を開発したのがナガセヴィータです。

トレハロースは食品を美味しく、長持ちさせることからフードロスの削減に効果があるため、サステナブル事業として推進しています。

もう一つの主力商品のAA2Gは、主に化粧品素材として使用されるビタミンCであり、安定的な構造をを持っているため、化粧品に配合しても安定し、着色しにくい特徴があります。

こちらは、国内外の高級化粧品などに配合されています。



- 食品素材の販売と配合品の製造やプロテインなどの最終製品の受託製造を行う
- M&Aを含む積極的な投資により事業を拡大

Prinovaグループの強み

- 食品用ビタミン、アミノ酸、甘味料、カフェインなどの取り扱いで**世界最大級**
- 北米、欧州を中心とした**3,000社以上の顧客を有するネットワーク**
- 原材料の調達、配合とフレーバーに関する研究開発力
- プロテインなどのスポーツニュートリション分野**での経験とネットワーク
- 2,000品目以上の食品素材販売から最終製品の受託製造まで手掛ける
バリューチェーンの垂直統合型事業

次にPrinovaグループです。

Prinovaは欧米を中心に、ビタミンや甘味料などの食品素材の販売から、プロテインなど、スポーツニュートリションの最終製品の受託製造までを一貫して手掛けています。

食品用ビタミン、アミノ酸、甘味料、カフェインなどの食品素材の取り扱いでは世界最大級を誇っており、スポーツニュートリション分野でも経験とネットワークで高い優位性を持っています。

買収後も、成長のためのM&Aや新工場の設立など様々な形で投資を行っております。

生活関連セグメント



- 食品素材、化粧品素材、医薬品原料など景気変動を比較的受けにくい事業を行う
- ナガセヴィータとPrinovaグループを軸にフード事業の拡大を図る

収益貢献の大きい商品および製品

- ナガセヴィータ製品(AA2G[®]、トレハロース)
- Prinovaグループ製品
- 医薬品原料など

身の回りの製品例

- 食品に含まれる糖質
- 化粧品の原料
- ビタミン、アミノ酸、甘味料などの食品添加物
- プロテインなどのスポーツニュートリション
- 医薬品原料など

強み

- 業界トップクラスの顧客基盤とグローバルな事業基盤
- グループ内の商社機能、製造機能、研究開発機能を活かす総合力
- 高度な専門知識を有する人財
- 自社・他社素材の多彩な組み合わせによる提案力

この生活関連セグメントでは、今ご紹介したナガセヴィータとPrinovaの製品である、トレハやビタミンを始めとした食品素材、AA2Gなどの化粧品素材、医薬品の原料などを扱っており、比較的、景気変動の影響を受けにくい事業を行っています。

ナガセヴィータやPrinovaの買収によって、近年で事業規模が大きく拡大しているセグメントでもあります。

▶ 世界に広がるNAGASEグループ

拠点数

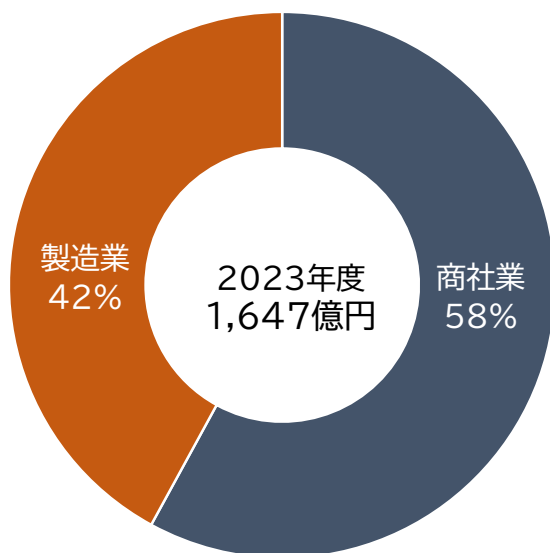
25 **106**
カ国・地域 社



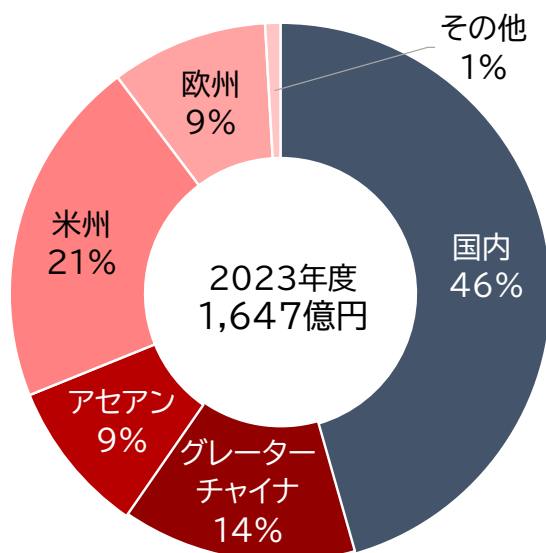
これまで歴史とセグメントについてお話をさせて頂きましたが、NAGASEは昔から海外事業に携わっており、今では世界25の国と地域に、延べ106社の拠点を保有し、グローバルなネットワークを構築しています。

▶ 業態別・所在地別売上総利益

商社だけでなく、製造機能を活用し、世界でビジネスを行うのがNAGASEの特徴



商社業:954億円
製造業:692億円



国内:756億円
海外:896億円

業態別と地域別の売上総利益です。

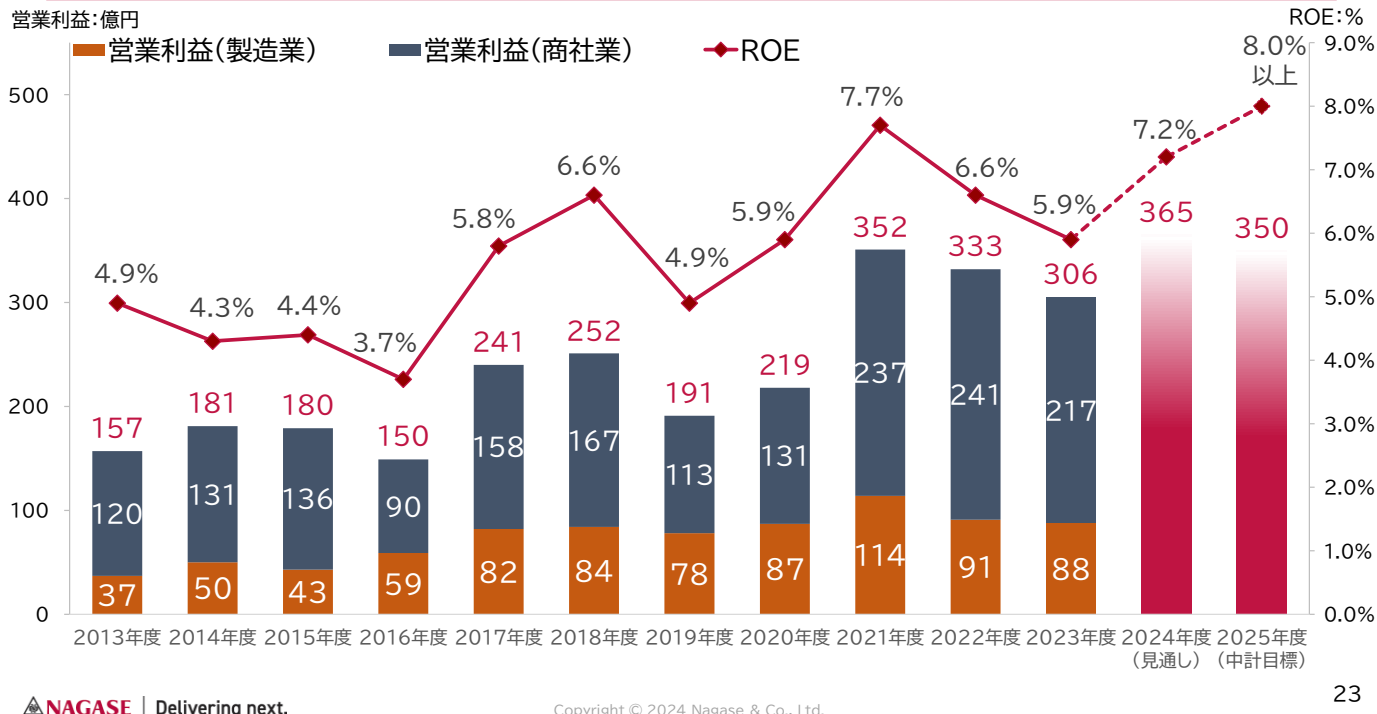
これまで何度かご説明したようにNAGASEは商社としてのビジネスと、グループの製造機能を活用したビジネスを行っています。

売上総利益を業態別に区分しますと、売上総利益の40%ほどが製造業からの収益となっており、製造業の貢献が高いことが見て頂けるかと思います。

また、右のグラフで所在地別にみると、海外の売上総利益は50%強となっていることと、海外は欧米・アセアン・グレートチャイナつまり中国地域でバランスよくビジネスを展開しているのがお判りいただけると思います。

業績の推移と見通し

- 2024年度は過去最高益を更新する見通し
- 2025年度までに営業利益350億円の常態化、ROE8.0%以上を目指す



23

こちらは営業利益とROEの推移になります。

棒グラフが営業利益となります。

多少年度によって浮き沈みがありますが、順調に右肩上がりに伸びております。

中期経営計画**ACE 2.0**では、最終年度である2025年度に営業利益350億円の常態化、ROE8%以上を定量目標として掲げておりますが、今年度、2024年度には過去最高益を更新する見通しです。

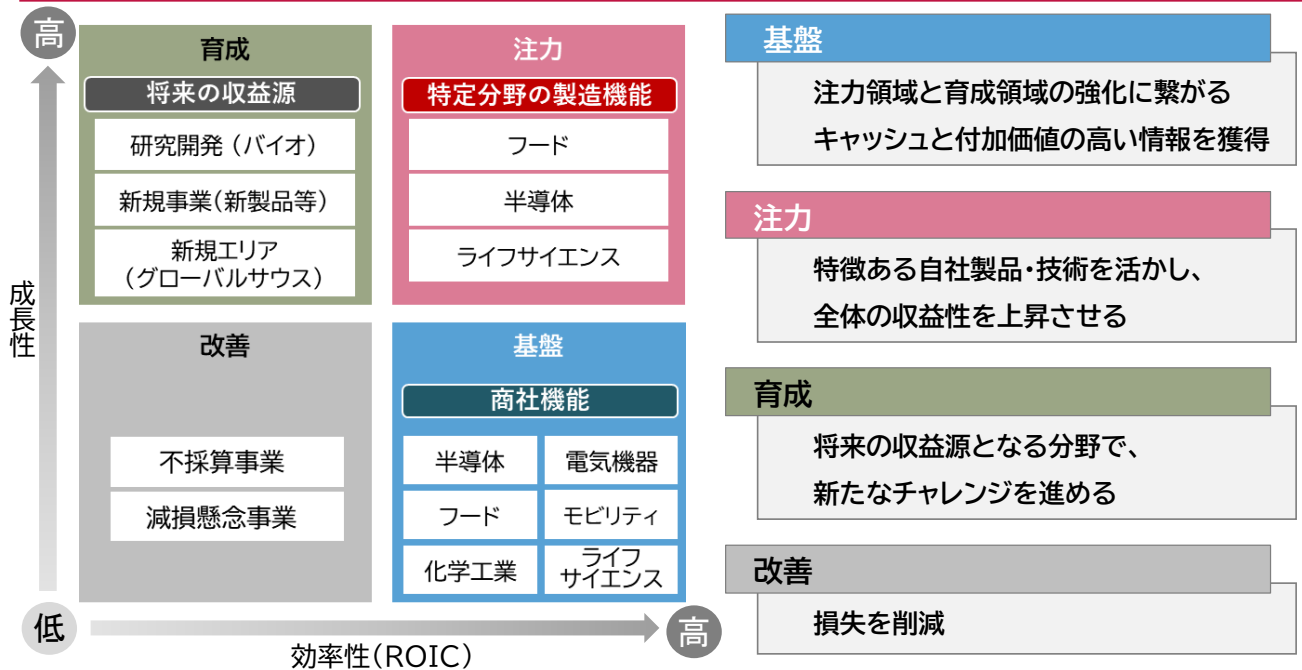
INDEX

1. 長瀬産業について
2. 成長戦略「中期経営計画 ACE 2.0」(2021-25年度)
3. 株主還元
4. まとめ

ここから、目標を達成するための成長戦略についてお話いたします。

▶ 将来に向けた成長戦略

- 基盤事業である商社機能から生み出された経営資源や情報を注力・育成領域で活用する
- 注力・育成領域に対する2023年度以降の潜在的な投資額は約800億円
- 中長期的な利益規模・利益率の向上を狙う



NAGASE | Delivering next.

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

25

左の図は縦軸に成長性、横軸に効率性の2軸、4象限で戦略を表したものになります。

1つ目の基盤領域は、NAGASEのベースになる商社機能を示しています。商社ビジネスでは、より多くのキャッシュを生み出すとともに、付加価値の高い情報を集め、集めた情報を育成や注力に提供し、成長させていきます。

注力領域では、自社製品や技術を磨き、収益性を向上させていくことができる製造機能を分類しています。特に成長性が見込めるフード、半導体、ライフサイエンス分野にリソースを集中的に投入していきます。

育成領域では、基盤で得た情報をもとに、バイオを中心とした研究開発や、新規事業の立ち上げ、新規エリアである、インド、メキシコ、ブラジル、インドネシアなどのグローバルサウスでの事業展開など、将来の収益源となるプロジェクトのチャレンジを進めていきます。

この注力と育成領域に対する2023年度以降の潜在的な投資額は約800億円となります。

最後に改善領域です。不採算の事業・取引や、減損懸念資産に対して徹底的に見直しを行い、可能な限りゼロを目指して取り組んでいます。

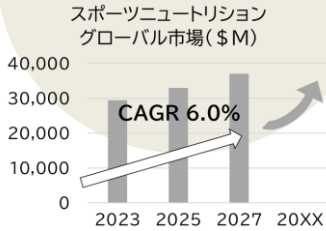
具体的な注力・育成領域の戦略については、次のページからご説明します。

【社会課題】

- ・世界的な健康志向の高まり
- ・フードロスに対する課題意識

収益性の高い製造加工ビジネスを拡大する

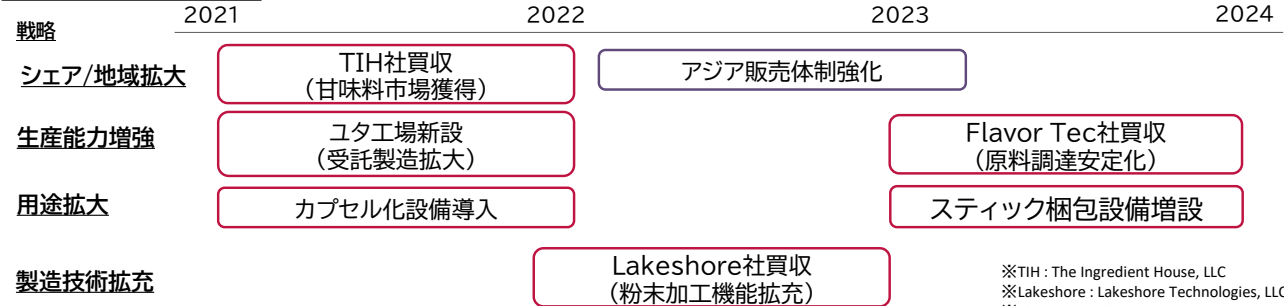
健康寿命の延伸
フードロスの低減



引用元: © Statista 2023のデータをもとに当社作成

- ・成長性の高いスポーツニュートリション市場との接点
- ・自社製造の機能性食品素材を含む多様な素材ラインナップ
（自社素材:トレバ[®]、ファイバリクサ[®]、ヘスペリジン等）
- ・グローバルをカバーする販売網
- ・M&Aの経験とノウハウ
- ・ワンストップで調達から製造まで提供できるビジネスモデル

<具体的な取り組み>



※TIH: The Ingredient House, LLC
※Lakeshore: Lakeshore Technologies, LLC
※Flavor Tec: Flavor Tec - Aromas De Frutas Ltda

注力領域のフード分野は、ナガセヴィータとPrinovaを軸にして収益性の高い製造加工ビジネスを拡大させていきます。

特に、Prinovaグループが受託製造を行うスポーツニュートリション市場は健康志向の高まり等を受け大きな成長を見込んでいます。

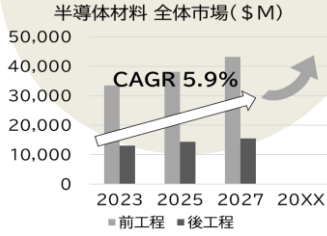
左上のグラフは、スポーツニュートリションの世界市場と、その成長率を示しており、成長性が見込める市場であることが分かっていただけたと思います。

下の図はPrinovaグループを中心とした事業拡大のために、過去3年に実施した投資施策を記載しています。2021年には甘味料を扱う商社のTIH社を買収し、甘味料市場に参入しました。また、スポーツニュートリション事業拡大のための米国ユタ工場の設立やカプセル化設備の導入なども行っています。2022年には食品素材の加工を行うLakeshore社の買収により粉末加工機能を拡充しました。さらに2023年には、スティック梱包設備を導入したほか、アロマ事業を手掛けるFlavorTec社を買収し、エッセンシャルオイルの製造機能を拡充しました。

このような積極的な投資により、新たなビジネス領域の獲得と製造機能の拡充を進めています。

【社会課題】

- ・最先端半導体の需要増加
- ・経済安全保障を背景とした生産拠点の多極化



引用元:富士経済のデータをもとに当社作成

生成AIサービスの普及で急成長している最先端半導体市場において高付加価値製品の販売をさらに拡大

- ・最先端半導体向けの液状封止材において圧倒的なシェアを獲得
- ・多様な要素技術による企画設計/製造力



液状封止材



シート状封止材

最先端半導体の製造に欠かせない高付加価値な素材を提供

<具体的な取り組み>

先端半導体パッケージングへの新コンセプト材料提案

- ・多様化・複雑化する先端半導体パッケージングに対し、新コンセプトのシート状封止材をラインナップ
- ・液状封止材から、次世代の半導体分野での業界標準の獲得も目指す

国内初 半導体製造に使用される現像液の回収・再生を事業化

- ・半導体製造における現像液・水の再利用と、産業廃棄物の処理費用の大幅削減を実現する
- ・Sachem社とNAGASEグループの合併会社SN Techが現像液の廃液を原料として回収するプラント“Green Mobius System”の製造・販売を実施する

続いて半導体分野になります。

半導体は今の生活に欠かせないものの1つになっており、今後も半導体市場は大きな成長を見込んでいます。ナガセケムテックスは生成AI関連など最先端半導体用の液状封止材において圧倒的なシェアを獲得しています。

その実績や、多様な要素技術による企画設計、製造力を軸に、最先端半導体製造に必要な製品の販売を拡大させていきます。

具体的な取り組みを下に記載しています。

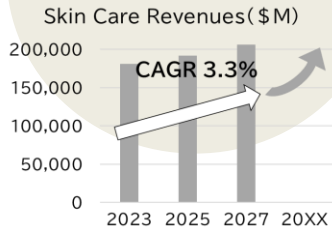
半導体パッケージングがますます多様化・複雑化する中で、封止材に求められる性能はより高いものとなっています。半導体チップの多層化や巨大化に対応するためにナガセケムテックスで製造する液状封止材に続き、次世代製品として、シート状封止材を製品化しました。液状封止材につづいて次世代の半導体分野でも業界標準を目指します。

また、半導体の製造プロセスに使用する現像液の回収・再生事業を立ち上げ、実績化に向け取り組んでいます。半導体製造における現像液や水の再利用と、産業廃棄物の処理費用の大幅削減を実現します。これは国内で初めての試みであり、国内での実績化を進め、半導体メーカーに対してグローバル展開を目指します。

【社会課題】

- ・高齢化社会・健康志向の高まり
- ・サステナビリティへの意識の高まり

サステナビリティへの意識が加速するライフサイエンス市場において
市場トレンド・顧客ニーズに合った自社素材を提供していく



引用元: © Statista 2023のデータをもとに当社作成

- ・医薬品の安定性を支える糖の安定化技術
- ・処方提案と分析・評価機能
- ・各国レギュラトリーへの対応機能
- ・精密有機合成技術
- ・グローバルでのサステナビリティに関するプレゼンス

安心安全なバイオ
由来素材の提供



<具体的な取り組み>

医薬品素材

トレハロースSG : 医薬品添加剤用のトレハロース。需要が高まる抗体医薬品の品質安定性向上に貢献

プルラン : 微生物が作り出す多糖。フィルム形成性を有するため医薬品カプセル市場に展開

パーソナルケア素材

AA2G® : 安定型ビタミンC、自然由来の香粧品素材。美と健康意識の高まりにより海外への展開を加速

続きまして、ライフサイエンスの分野です。

社会課題である高齢化社会、健康志向の高まりを受けて、今後ますます成長していくと見込んでいます。ここはナガセヴィータが牽引をしており、ナガセヴィータが開発した特徴のある機能性の素材に、よりリソースを投入していき、安心、安全なバイオ由来の素材を社会に提供することによって、サステナブルな社会の実現に努めていきます。

ナガセヴィータの取り組みとしては、食品に使用されるトレハロースを、トレハロースSGとして医薬の分野にも活用していく取り組みです。トレハロースを精製して、医薬品の添加剤として使っていくもので、抗体薬品などは、がん治療に非常に重要な役割を果たしていますが、品質の安定性といった課題解決にトレハロースSGが貢献しています。

医薬品素材のプルランは微生物が作り出す多糖で、もともと食品のトロミづけや粘着など限られた用途で使用されていましたが、医薬品カプセル向けにも展開しています。この微生物で作り出されたカプセルは完全植物性であり、動物性に制限がある特定の宗教の人たちへの提供も可能な事が強みとなります。

ここに書いてあるものに限らず、ナガセヴィータで製造する素材はバイオ由来の素材ですので、サステナブル意識の高まりが、今後ライフサイエンス事業にとっては非常に追い風になると考えています。

抗酸化効果を持つエルゴチオネインの発酵法を用いた量産化を目指す

エルゴチオネイン

- ✓アミノ酸の一種でキノコ等に含まれる天然成分
- ✓強い抗酸化作用を有し、高い安全性が担保されている

期待される効果は？

- ✓認知への効果
- ✓肌しわ・シミの改善
- ✓快適な睡眠



バイオ由来の高吸水性ポリマーの開発に成功、事業化を目指す

生分解性SAP

- ✓でん粉を主成分としながら、高い吸塩水性能を実現
石油由来品と同等レベル、他社の生分解性SAPの6倍超

- ✓土壌や海水での分解が可能

SAP(高吸水性ポリマー)とは？

- 高い吸水性能を有する高分子材料で、紙おむつや、農業、緑化分野や化粧品など幅広い分野で使用されている
- 石油由来品が主流で、環境負荷が大きいことが課題



※2023年10月31日「日本経済新聞」へ出稿

続いて育成領域です。

こちらバイオ技術ですが、NAGASEはバイオで新素材を生み出し、その要素技術や量産化までの機能・ノウハウを有している、国内では数少ない企業になります。

現在、上市に向けて進めている2つの素材のうち、1つ目がエルゴチオネインです。

これは希少アミノ酸の一種で、トレハロースと同じくキノコに含まれている天然成分になります。

強い抗酸化作用を有しており、認知機能、睡眠改善、肌しわや老化防止などの効果が期待されています。

このような素材を独自の酵素技術で製造するプロセスを開発し、現在量産化に向けた準備を進めています。

2つ目が、バイオ由来の高吸水性ポリマー、生分解性SAPです。これはおむつに使われる吸水素材です。

NAGASEは、でんぷんを主成分とし、独自の酵素技術と有機合成技術を掛け合わせ、土壌や海水で分解される生分解性を有しながら、石油由来品と同等レベルの吸水性能を持つ素材を開発しました。

右下の赤ちゃんの写真の横に「おむつ問題は水に流そう」とあります。

通常のおむつは水を吸ったものを回収し、燃やしますが、水分を含んでいるので、燃やすのに時間がかかり、CO2の排出量も増えてしまいます。

土壌や海水で分解される特性を活かすことで、例えば、将来的にはトイレに流したり、回収して土に帰すことができるなど、非常に注目されている素材になります。

INDEX

1. 長瀬産業について
2. 成長戦略「中期経営計画 ACE 2.0」(2021-25年度)
3. 株主還元
4. まとめ

ここから株主還元についてお話しします。

▶ 株主還元方針

- 資本の増加を抑制し、ROE8.0%以上の達成を確実なものとするため、2024年度、2025年度の限定措置として総還元性向100%とすることを決定

(ROE = 当期純利益 ÷ 自己資本 × 100)

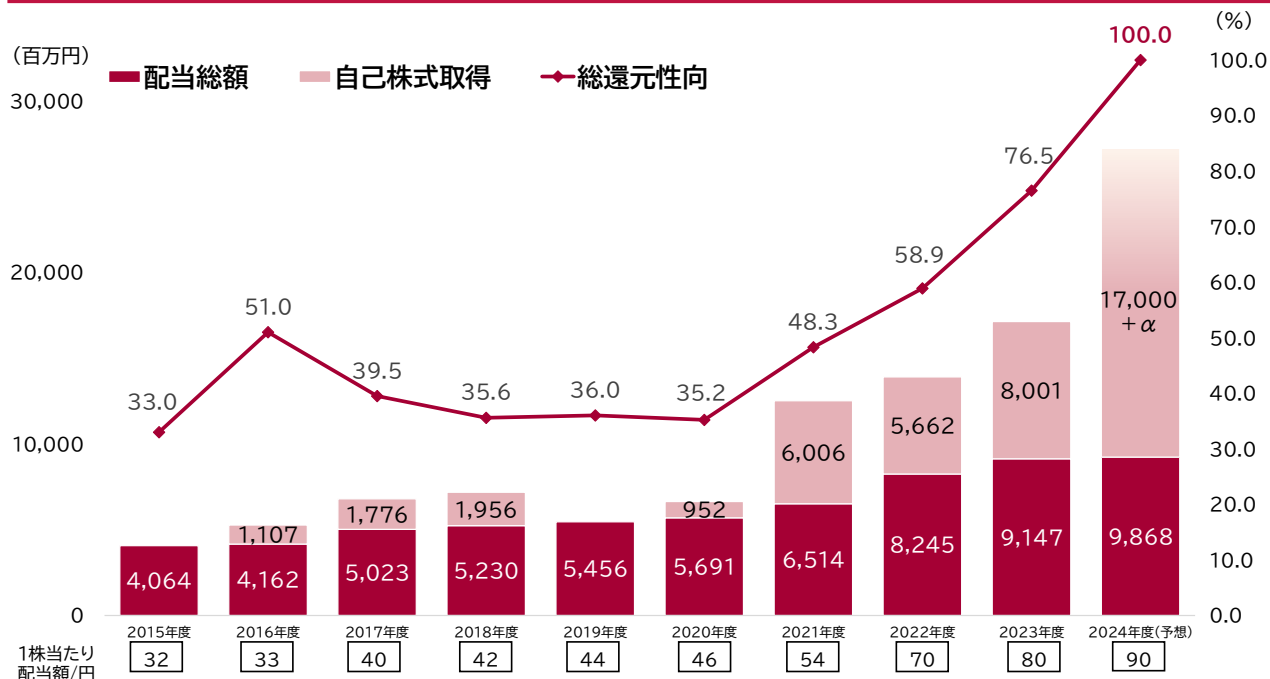
	従来方針	新方針(～2025年度)
総還元性向	—	100%
配当	原則継続増配	原則継続増配 ※変更なし
自己株式取得	政策保有株式の売却額を上限とし、機動的に実施	機動的に実施

これまで成長戦略についてお話してきましたが、2025年度までに、ROE8%以上を達成するためには、利益成長だけでなく、資本の増加の抑制が必要であると判断し、2024年5月の決算発表の際に、株主還元方針を大幅に変更しました。

具体的には、2025年度までの限定となりますが、総還元性向100%を打ち出し、配当金については、原則継続増配としつつ、自己株式の取得を機動的に実施する方針といたしました。

株主還元方針

- 2024年度の中間配当は当初予定から5円増配し45円
- 2024年度の期末配当は45円、年間90円を予定(15期連続増配見通し)
- 2024年度の自己株式取得は現在までに170億円を実施



株主還元の推移ですが、2024年度は15期連続で増配を見込んでいます。

2024年度の中間配当は当初予定の40円から5円増配し、45円としています。

期末配当は45円を予定しており、年間90円の予定です。

2021年度の中期経営計画のスタートからは、自己株式の取得も積極的に進め、2023年度は総還元性向76%を達成しており、この2024年度、2025年度の2年間の限定ですが、総還元性向100%という形で還元を推進していきます。



INDEX

- 1. 長瀬産業について
- 2. 成長戦略「中期経営計画 ACE 2.0」(2021-25年度)
- 3. 株主還元
- 4. まとめ

最後にまとめです。

▶ まとめ

ものづくりの課題を素材(マテリアル)で解決する会社

事業 内容

フード・半導体・ライフサイエンス・電子デバイス・モビリティ・化学工業市場におけるものづくりの課題を商社機能、製造機能、研究開発機能を活かして解決

成長性

フード・半導体・ライフサイエンス分野の製造機能、バイオ分野の研究開発機能にリソースを集中注力・育成領域に対する2023年度以降の潜在的な投資額は約800億円

安定性

自己資本比率50%(2024年3月末時点)
特定の市場・地域に依存せず、バランス良く収益を稼ぐ

株主 還元

2024年度、2025年度の2年限定で総還元性向100%を掲げる
2024年度は中間配当は当初予定から5円増配し45円、
期末配当は45円、年間90円を予定(15期連続増配見通し)

NAGASEについて、事業内容、成長性、安定性、株主還元の4つの項目でまとめています。
是非、ご一読頂ければと思います。

NAGASEは、2032年に200周年を迎えます。常に時代に合わせて変革し、成長し続けてきました。
今後もいろいろな取り組みを通して成長してし続けることを感じていただけたら幸いです。

最後までご視聴いただきありがとうございました。



■お問合せはこちらから

<https://www.nagase.co.jp/contact/>

■当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.nagase.co.jp/ir/>

当プレゼンテーション資料には、2024年11月29日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。